

違い認め合い連帯しよう！ ちから

— 「フォーラム・地域の福祉力を高めよう」 開催しました —

障害者自立支援法本格施行前夜

9月2～3日、明海大学浦安キャンパスを会場に「障害者が真に自立できる社会を目指して」をテーマに、福祉ネットワーク浦安と「とも」が共催でフォーラムを開催し、約600名の参加をいただきました。10月から、障害者自立支援法が本格施行されることから、シンポジウムの内容は自立支援法に関することに重点が置かれてきましたが、教育や就労をテーマにしたシンポジウムも行われ、本人、家族、行政、政治家、事業者、研究者など、多様な人たちが集まって、「ともに生きる社会」を考えるという内容になりました。

第1部の基調講演で、慶応大学の浅野史郎教授は「自立支援法の最大の問題はお金が足りないこと」とした上で、それを解決するためには「障害者の問題を特別な問題にしないこと」とし、「財源を介護保険と一体にすることによって、すべての人にとって自分事にする」という方向性を示しました。さらに、「わたしは、統合教育論者」とした上で、子どもの頃から地元の友だちと一緒に育つことによって、障害に対する人の意識を変えていくことの大切さを強調しました。

自立支援のため独自の自己負担軽減策を決断

第2部は、厚生労働省障害福祉課企画官の伊原和人さん、浦安市長の松崎秀樹さんを交えての鼎談となりました。伊原さんは、自立支援法の1割負担にふれ、国の財政が厳しい中「利用者負担をお願いしても、サービス量を増やしていきたい」「利用者負担は300～400億円になる見込みで、それによって20%サービス量が伸びる」と説明。さらに、地域自立支援協議会が動くかどうか、地域福祉を進めるための分かれ道であることを強調しました。松崎市長からは、就学指導によって障害のある子どもの就学先が分けられてしまうことへの疑問から、障害のある子が地元の学校で学ぶことができる教育の取り組みをはじめたというお話がありました。また学校の用務員さんが、日々学校に通う障害のある子の表情の変化に気づいていることを知り、この方向に確信を持ち、ノーマライゼーションの理念に基づく「浦安市学校教育指導の指針」を明文化したことが話されました。そして、「障

害をもったことは本人や家族の責任ではない。本人の自立支援のため1割負担に対して、浦安市独自で自己負担軽減策を行う。」と発表しました。さらに、介護保険制度によって障害福祉を行うことにも疑問があり、税で行うべきであるという立場を表明、しばし議論となりました。最後に、障害福祉を教育から始めることにより「隣人社会から友人社会になる」と結びました。

自立支援協議会と相談支援が制度の要

第3部では、厚生労働省障害福祉課長補佐の川野宇宏さん、浦安市保健福祉部長の石川賢司さん、東松山市（埼玉県）福祉課長補佐の山口和彦さんが、自治体での取り組み状況を報告しました。川野さんは、自立支援法は市町村の取り組みに重点が置かれており、特に相談支援事業の重要性と、そこから汲み上げられたニーズを地域自立支援協議会で解決していくことによって地域が変わっていくと話しました。浦安市の石川部長も、これまで浦安市で取り組んできた相談支援事業を自立支援法の中でも重視していくことや、自立支援協議会を浦安市単独で立ち上げ、形式的にならないよう取り組む決意を表明しました。

外出支援が自立を育て社会を変える

その後、国や自治体の取組状況を受けて、自立支援法、教育、就労をテーマにシンポジウムが行われました。保護者の立場で参加した浦安市在住の日高眞理さんは、中学生の本人がガイドヘルパーと一緒に外出する機会が本人の自立にとって大切であることや、障害のある人が外出することで街の人と出会い、理解が進むことを話しました。自閉症の息子さんの親でもある毎日新聞の野沢和弘さんは、千葉県で策定が進められている「障害者の差別をなくす条例」づくりにふれました。草の根の地道な活動によって、条例に消極的だった県議会議員の人たちも積極的になってきたことや、策定委員会の中で障害の違いによって対立してしまい、議論が進まなかったのが、意見をぶつけ合ううちにお互いを理解し、条例案がまとまっていった経過が話されました。

ともに生きる社会は学校教育から

教育セッションでは、浦安市教育研究センター所長の細田玲子さんから「特別支援教育」について説明がありました。お子さんの就学を間近に控えた浦安市の加藤今日子さんからは、子ども自身にとって本当によい教育環境は何か迷いがある、というお話があり、それを受けて、同じ浦安市で中学校卒業までお子さんが通常学級で学校生活を送った先輩お母さんの竹谷さんから、学校生活のスライドを交えて、友だち同士の関係が学校生活を支えたことが話され、DPI日本会議事務局長の尾上浩二さんからも、ご自身が子ども時代に施設入所してリハビリを受けた頃の過酷な体験と、当時施設の理学療法士だった山本和儀さんとの出会いによって地元の中学校に入学し、友だちの支えによって本来の自分の生活を取り戻していったことが語られました。山本さんからは、尾上さんや本人たちに、専門家の役割は本人や家族を支えることだと教えてもらったというお話がありました。加藤さんから「学校に入学するまで補助教員がつくかどうか分からないことは不安」という疑問が出されましたが、その後のシンポジウムで松崎市長から「10年前に『学校教育指導の指針』として定めたことが後退しているようで申し訳ない」と、率直な言葉がありました。

浦安市で新しい就労支援の拠点を

就労シンポジウムでは、浦安市で就労している4人の障害のある人が登壇し、それぞれの職場の様子がビデオ紹介とともに語られました。続いて、浦安市障害福祉課長の峯崎清貴さんから、市内千鳥地区のクリーンセンター余熱利用による就労の場づくりの計画について報告がありました。千葉障害者就業支援キャリアセンターの藤尾健二さん、NPO法人障害者就業生活支援開発センターの増田秀暁からは、事業を成功させるためのアドバイスがありました。NPO法人タオ理事長の末益隆志さんからは、この計画を単に「就労の場」で終わらせるのではなく、そこから一般就労にステップアップしていくことができる「就労支援の場」にすることが必要だという意見が出され、福祉ネット浦安代表の西田俊光さんからも、「就労支援センター」の具体案が提案され、会場からも拍手がわきました。続くファイナル・セッションの冒頭、松崎市長は就労支援策にふれ、年間2,500万人が訪れ、6,500室の客室をもつホテル群がある浦安市の地の利を生かした就労支援の拠点をしたいという考えが表明されました。

違い認め合い連帯しよう！

ファイナル・セッションでは、埼玉県立大学の佐藤進さんから、政府の財政諮問会議は、国家財政再建のために社会保障予算にも歳出削減を求めているが、先進諸国と比較すると、国内総生産に占める社会保障費用は、主要27か国中第22位であることを指摘。「共生社会の実現」を通して、社会連帯を回復し、すべての人が安心して生活できる社会にするために社会保障予算を増やすことを国民的合意にする必要があることが話されました。最後に、松崎市長からは、ともに学ぶ教育によって浦安の子どもたちが社会を変えている。一緒にがんばりましょう、という力強いメッセージがあり、「とも」理事長西田さんからは、「財源不足が、利用者と事業者、子どもと親、障害者とそうでない人、障害種別による違いなど、幾重にも対立構造をつくってしまっているように感じる。お互いに話し合い、違いを認め合って広い視点で連帯したい、しませんか？」というのがこのフォーラムを通じて伝えたいこと。」という連帯の呼びかけで、熱く語り合った2日間のフォーラムが閉会しました。詳しくは、9月20日発刊のフォーラム報告書をお読みください。みなさんに感謝しています！（文責・曾根）

江里ちゃん、ねぶた祭りのPRに登場

去年、青森県のねぶた祭りに参加した「とも」利用者の江里ちゃんが「ケア付きねぶた」の宣伝用垂れ幕の写真に登場し、青森県庁の玄関を飾りました。写真は、いつも「とも」の写真撮ってくださるプロカメラマンの水戸さんの作品。この垂れ幕が、内閣府のバリアフリー大賞にノミネートされています。去年の江里ちゃんの参加に触発されて、今年は医療的ケアが必要な子が「ケア付きねぶた」に参加したそうです。人の輪が広がっています。（広報編集担当S）



今川センターができました！

9月1日から「とも」の就労支援センターとして始動しました。

今までは一会社の中で障害者と共に働いてまいりましたが、これからは浦安の障害をもった人達の就労支援も考え、社会福祉法人 パーソナル・アシスタンスともの一員として、私自身も共に成長していきたいと思っています。

職員：横山

◆ スタッフよりひとこと ◆

今回は非常勤スタッフのメンバーを紹介します。
こんなスタッフになりたい・今はまっている事・ともで実現したい事・ともに入ったきっかけ・私はこんな人・私の好きな所、長所など、一言メッセージです。

A T ある講習で聞いたケアスタッフの心の健康の重要性を痛感しています。

I T ハワイ好きが高じ、フラ、ボディボード。体操競技観覧。自然の中で自分をリセットする事が大好きです

I H 「リウマチ」や「喘息」に負けない丈夫な体を持ち、いつもニコニコケアをしたい。

I M 実習では慣れないせいもあって、子どもが今何をして欲しいのか心をくみとるのが大変だと思いました。又勉強させて頂きたいと思います。

U N 母がイルカスイミングのボランティアをしていたご縁です。

E K 子育てをしながらですが、皆さんとの時間を大切にしています。

O T 今、数独(数字のクロスワードパズルみたいなもの)にはまっています。毎日脳トレーニングしています。

O T 障害者の目線に立って進める、考えることはとても難しい。それ故にやりがいがあります。

K M 利用者さんがリラックスできる様なスタッフになりたいです。

K S 久しぶりにスポーツ始めました。とっても楽しいんです。利用者の皆さんとも一緒にしたいです。

K A 解くほどに脳が鍛えられる数独(数字のクロスワードパズルみたいなもの)に熱中。

K M 毎日1500m泳ぐのを日課とする程、今スイミングにはまっています。

K K 小6と小4の男の子の母です。元気が一番。秘訣は大好きな音楽とチョコレートです。

K K 私は今、車の免許が取りたいと思っています。将来的には、ケアでも役立つかな...何て(^.^;))

S E 個性豊かな子ども達との出会いがあり、沢山のドラマを経験し、私の心を少し成長させてくれた気がします。健常者も障害者も同じ場所にいることが普通である社会になって欲しいと思います。

S Y ケアの時だけは、年を忘れて頑張ります。

T Y 来年開催予定のベイシティマラソンに息子と参加し、完走を目指しているので、ジョギングにはまっています!

T M LIVEに行き、オープニングのワクワクする感じが大好きです。

T M 「雨垂れ石を穿つ」そんな気持ちで、皆さんと少しずつ前進していきたい。

T M 全てが新しい経験です。共感と安心、満足を確認するを目標として。

N K 最近は大好きな映画を観てないのですが、その分「とも」で子ども達と過ごす時間は私の元気の源になっています。少しでも子ども達の気持ちを理解してあげられるようになりたいです!

H J 子どもと遊ぶ事、人とお話する事が大好きです。

H Y 私はとても楽天的で前向きな性格です。おばさんギャグが多いのですが受けが悪いです(^.^;))

H K 山が好きで、夏に富士山に登ってきました。雲海も見れ最高でした!

H K 利用者の皆さんが本来備え持つ高い能力を、どのように引き出し開花させるかと云う視点で、支援に努めたい。

H S こう見えて私、チア・リーダー出身!笑顔と根性、その面影は今何処...

H K 皆さんの笑顔が大好き!共に過ごす時間を大切にしていきたいです。

H Y 私は、ハンカチ王子の斎藤君よりも、駒大苫小牧の田中君の笑顔の方が好きなんです。

M M 趣味はトリムバレー。練習は週2回行っていきます。練習後一杯飲むのが楽しみです。

M K 高校から茶道を始め、今まで続けて30年。高校の茶道部から海外にも広めようとお家元の方と活動しています。富岡公民館で子ども達を中心とした茶道教室も開いています。

M N 障害を持つ子供達と一緒に楽しく元気に優しい笑顔で接していきたいです。

M T 「くだらない」と思っていたのに娘とDS(ゲーム)に、はまっています。

M K 団塊の世代が地元に戻ってきたら社会貢献として、ともに参加してくれるといいなと考えています。

Y T 私がともに入ったのは、様々な人に出会いたかったから!これからも多くの人達に会いたいです!

Y S 私は求人セット型のヘルパー研修を受講する中で、その時点で主となる職場は決まっていた。これは縁でしょうか、ともとの関係が深い曾根さんが講師としてみえた日がありました。ともとの紹介ビデオを観たり、募集のチラシをもらったりしたことがきっかけで非常勤で働くことになりました。

Y S みんなにパワーをもらって寄り添いながら楽しい時間をいっぱい共有したい!です。

Y M 一人ひとりの今の生活を大切にして、ナチュラルな心地よいケアを追求していきたい。

<編集後記>フォーラムでは、感動のエピソード、泣ける話がたくさん語られました。フォーラム後は冊子が泣きながらつくられました。泣かせてくれた、泣いてくれたみなさんとの出会いに感謝の気持ちでいっぱいです。(西田)